

教育支援部だより

今回は、学校における『日常生活動作の向上のための支援』について、本校の教育実践とともにお伝えします。

日常生活動作を支援するポイントは・・・

- ①楽しく身体を動かす→興味を持って取り組めるよう、遊びの中に取り入れる
- ②運動面と感覚面の両方をサポート→様々な物に触れ、体験する機会をつくる
- ③スモールステップで行う→動作を小さな動きに分けて積み重ねる
- ④分かりやすく具体的に指示をする→特性に配慮して子どもに合った方法を行う
- ⑤たくさん褒めて意欲を引き出す→どこが良かったのか具体的に伝える
- ⑥できないときはやり方を見直す→できなくても叱らず別の方法を考える
- ⑦環境を整える→視覚的・聴覚的な刺激を減らし、活動に集中できるようにする
- ⑧チームで支援する→複数の視点で子どもの実態を把握し、一貫した指導を行う

生活動作・学習動作の習得は体力・運動能力の基礎を養うだけでなく、自立を促し、自己肯定感を高め、積極的な社会参加につながります!

本校での取組を紹介します!

ダイナミックに身体を動かす**粗大運動**と、様々な物に触れる**微細運動**の両方をサポートする支援

バランスボール運動



『バランスボール』は、発達障害の子どもが好んで使う道具の一つで、遊び感覚で行うことができます。様々な姿勢でボールの弾力性を利用しながらバランスをとることで、適度な固有受容覚、前庭覚への刺激も期待できます。座っていても常に身体を動かしていたり、席を離れて動き回るような子どもは、落ち着いて取り組みたい課題の前に十分にバランスボールで遊ぶことで、その後の活動を落ち着いて取り組むことができます。

スライム遊び



『スライム』に直接触れて手指の使い方を体験することは、手指のイメージを育てることにつながります。どのくらい力を入れたらどのくらい伸びるかを知ることで、力加減の調整もできるようになります。過敏さがある子どもには、硬めのスライムを準備して、徐々に感触に慣れるように工夫しています。

日常生活の中で必要な**基本的な生活動作**
を身に付けるための支援

ボタン掛けの練習



『ボタン掛け』は、指先に力をこめたり、左右の手を協調させて動かしたりする細かい動きです。一番上のボタンを掛けるときは、目で直接見られない指先の感覚だけが入ったことを理解することが必要です。指先を使う「つまみ」の動きをするためには、手首の動きが大事です。できない場合は、手首を観察してサポートすることがポイントです。

洗濯ばさみを使った練習



服の後ろ側に付けた『洗濯ばさみ』を一つずつ取って行く活動です。iPadを使ってゲーム感覚で楽しみながら行えるように工夫しています。見えない背中側で手を動かすことで、体の後ろ側への意識を高め、身体イメージを養う練習になります。「つまむ」、「握る」練習を通して、身体イメージや指先の操作性が高まると、服をはおったり、かばんを背負ったりする動作がスムーズにできるようになります。

社会生活や余暇の充実につながる支援

手指をうまく使うには、「3対2の法則」が重要です。一般に、親指側の3本の指は「運動性」を、小指側の2本の指は「安定性」を担っています。

『トング』を使う活動を通して、手指の役割分担をつくる土台ができ、箸やハサミなどを使うための運動性を引き出すことができます。なお、学校卒業後の社会生活や余暇の充実につなげていけるように、焼き肉屋をイメージした内容や、さいころを使ったゲーム的な内容を取り入れています。

**焼き肉に見立てた布をトングで
返したり皿に移したりする活動**



**トングでさいころを高く積み
上げていくゲーム的な活動**

発達段階に応じた系統的な支援を行い、子どもたちの学びの連続性を確保することが大切です！！



参考・引用文献

「発達障害の子をサポートする生活動作・学習動作事例集」 池田書店

「子ども理解からはじめる感覚統合遊び」 クリエイツかもがわ

「気になる子どものできた！が増える体の動き指導アラカルト」 中央法規出版株式会社

「ちょっとしたスペースで発達障がい児の脳と感覚を育てるかんたん運動」 合同出版株式会社